



NEWS

2011 No.238

1月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

平成23年 理事長年頭所感

創設25周年を飛躍の年に！ より質の高い部品とサービスの提供で 皆様のお役にたつNGPを進化させます

25th
Anniversary
NGP



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合
理事長 大橋岳彦

明けましておめでとうございます。

平成23年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

さて昨年は、エコカー購入補助金や家電エコポイントといった政府の国内消費刺激策によって景気は徐々に回復へと向かい始めましたが、景気が本格的な回復軌道に乗らないうちにエコカー補助金が9月上旬で終了、さらに12月には家電エコポイント制度の中身が縮小されるなど、これらの刺激策の反動による景気悪化が懸念されるようになりました。

また尖閣諸島沖の中国漁船による乱暴行為、北朝鮮による突然の韓国砲撃といった衝撃的な事件が起こり、日本を取り巻く国際情勢は緊迫の度を増しています。国内外ともに不安な材料ばかりが目につく新年のスタートとなりました。

とりわけ自動車産業は、昨年の新車販売の内、登録車販売が323万台、軽自動車販売が172万6千台となり、2年連続して500万台を切るという厳しい状況になりました。エコカー補助金が打ち切られたことで、今年の新車は446万5千台とさらに厳しくなる見通しです。新車販売の落ち込みは、中古市場に対する商品車供給の減少、自動車損害保険の売上減など自動車アフターマーケットへも大きな影響を及ぼします。

しかし一部には明るい材料もあります。ユーザーの自動車保有が長期化するなかで修理需要は増加傾向を示すようになったことです。こうした需要に応え、魅力的な価格で修理サービスができる良質なリサイクル部品を皆様に提供できるようNGP日本自動車リサイクル事業協同組合の組合員一同力を合わせてまい進したいと考えております。

さらに新しいサービスの提供にも努めてまいります。二酸化炭素(CO₂)排出削減のためにNGP協同組合独自に取り組んできたリターンブル梱包材「エココンポ・オートパーツ」は、今年からドア・フェンダー用に加えてバンパー用の利用も始めます。また「グリーンポイントシステム」により提示しているリサイクル部品利用にともなうCO₂排出削減データにつきまして、今年4月以降タイムリーな情報として皆様に提供できるよう関係方面と調整し、準備を進めているところです。これらを通じて整備事業者の皆様が積極的に取り組み始めている「環境整備」を側面から支えてまいり所存です。

昨年はNGP協同組合の情報システムを更新いたしました。新システムではリサイクル部品利用時の注意事項が直ちにかかるようシステム拡張する予定です。ご注文を

いただいた時、利用についての確かな助言を行って円滑に整備作業に取り組める仕組みを作り上げてまいります。昨年スタートした「NGPエコひろば」を通じて、保有の長期化というユーザー動向に合わせてリサイクル部品を使って修理をする整備事業者様とユーザーを結び付ける仕組みを構築しました。皆様にご協力をいただき実施したアンケートの結果を分析して今後のサービス改善につなげてまいります。

さらに入庫車両の管理についても本部で情報を集約できるようにし、使用済自動車として排出された車両がどのような状態にあるかなどの問い合わせに即答できるようになります。併せて各組合員それぞれが、車両をしっかりと管理できるように保管場所の整備も進め、損害保険会社様等が安心して車両をNGP協同組合に預けていただける態勢といたします。

NGP協同組合は前身となる「NGP(西日本グッドパーツ)グループ」創設から今年で25年を迎えます。「お客様第一!」「より良い商品を!より正確に!より早く!」「補修部品業界のリーダーたること!」の理念を掲げ、皆様のお役に立てるように日々努力を重ねてまいりました。その一方でハイブリッド車などのエコカーの登場や少子高齢化による自動車市場の変化等、この25年間で自動車アフターマーケットを取り巻く環境は大きく変化しています。

変化の中で皆様により良いサービスを提供できるよう、NGP協同組合一同この25周年をステップにさらなる飛躍を遂げたいと考えております。引き続き関係各位のご指導、ご鞭撻を願いますとともに、皆様のご健康、ご多幸をお祈りし新年のあいさつといたします。

バンパー配送にリターナブル梱包材の利用を拡大 リサイクル部品に地球への優しさをプラスする 梱包材にさらなるご理解を

アンケートへのご協力ありがとうございました

NGP 協同組合はリターナブル梱包材「エココンポ・オートパーツ」の利用対象をバンパーにも拡大しました。バンパー用はPCV（ポリ塩化ビニール）製の袋状になった専用の梱包材で、青色の普通車用と緑色の軽・小型車用の2種類があります。回収にうかがいますので、これまでのドア・フェンダー用同様にご協力をよろしくお願いいたします。

リターナブル梱包材の活用は使い捨てになるダンボールの梱包から、産業廃棄物の削減と自動車リサイクル部品の配送時のCO₂排出を減らすことを目的にNGP協同組合が自動車リサイクル部品業界の先頭を切って取り組み始めました。「中身も箱もEco主義！」とすることでリサイクル部品の環境価値を高めたいと考えたからです。

試算すると、最初に導入したドア・フェンダー用では100回利用することでダンボール使用時に比べて配送1回当たりのCO₂排出を4分の1ほど削減することが

できます。例えば普通車用バンパーを梱包する際に使用するダンボール量は5.1kgに達します。このためバンパー梱包をリターナブル梱包材に置き換えると、ドア・フェンダー用以上に大きなCO₂削減効果が見込めます。100回利用することで1回当たりのCO₂排出は1061g、ワンウェーで利用するダンボールに対しておよそ10分の1にまで削減できる計算です。

もちろんこの試算は、回収時の物流に関わるCO₂排出も含まれています。梱包材の回収は、当初日本通運の「ペリカン便」が行っていましたが、現在はペリカン便の業務を日本郵便が引き継ぎ、郵便局が行うようになっています。折りたたむと青い普通車用が70×60cm、緑色の軽・小型車用が50×45cmの大きさになります。お手間を取らせることにはなりますが、回収にうかがうまでたたんで保管していただくようお願いいたします。

現在はエンジン用のリターナブル梱包材の開発を進めているところで、今年中に利

用を始めたいと考えています。また、リターナブル梱包材の利用に関して他のリサイクル部品流通団体からの問い合わせもあり、業界全体で利用を広げたいと思っていますところ。

話は変わりますが、昨年実施いたしましたアンケートへのご協力もありがとうございました。リターナブル梱包材についてのアンケートと環境問題全般のアンケートと2種類の調査に取り組みましたが、おかげさまでいずれも高い回収率になりました。リターナブル梱包材につきましては利用していただいた整備工場の皆様から高い評価を得ており、NGP協同組合として意を強くしているところです。

本紙が皆様のお手元に届く頃にはこれらのアンケート結果の取りまとめと、分析が終わっているところだと思います。皆様方のご協力に感謝をこめてさらにリターナブル梱包材の改善に努めるとともに新しいサービスの提供などにも取り組んでまいりたいと考えています。今年も、NGP協同組合の環境活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



青い普通車用と緑の軽・小型車用のバンパー用リターナブル梱包材。普通車用はマフラーにも応用可能

試作途中の軽エンジン用のリターナブル梱包材



NGP 今月のCO₂削減量

リサイクル部品利用にともなう削減効果



NGP 平成22年11月: **6,555 t**

NGP 1月からの累計: **72,318 t** (全12団体 1月からの累計 **125,877 t**)

※ NGP をはじめとしたリサイクル部品販売事業 12 団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO₂の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。

リターナブル梱包材利用にともなう削減効果



NGP 平成22年11月: **6.4 t**

NGP 1月からの累計: **80.8 t**

※ リターナブル梱包材の利用にともなう削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出削減の取り組みです。ダンボールに代えて、専用梱包材を200回繰り返し使用することで削減効果を試算しました。

エコプロダクツに5年連続出展

CO₂削減につながる 自動車リサイクル部品をPR



温暖化防止にリサイクル部品の有効性を訴えた NGP ブース

NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合は 12 月 9 ~ 11 日、東京都江東区有明の東京ビッグサイトで開かれた「エコプロダクツ 2010」に出展し、CO₂ 排出削減につながる自動車リサイクル部品を積極的に PR しました。エコプロダクツへの出展は自動車リサイクル部品業界では NGP 協同

組合だけで、5 年連続しての単独出展となりました。

廃車、事故車などの使用済み自動車を適正処理する過程で、再利用可能な部品を取り外して商品化し、リサイクル部品として事故車などの修理に供給するという循環型システムを紹介するとともに、今年もリサイクル博士が登場し、フロンガスの回収、エアバックの処理なども含めて NGP 協同組合の活動が CO₂ 排出削減をはじめとした地球環境の保全につながっていることを紙芝居を使って分かりやすく説明しました。ブース内をめぐるクイズの反応も良く、リサイクル部品の有効性を来場者に浸透させることができました。

今回は、NGP 組合員の茨城オートパーツセンター(増田嘉久社長、茨城県小美玉市)が製作したコンパクトEV(電気自動

車)の展示も行いました。周囲の自動車メーカーブースで最先端のEV展示があり、これとの比較で、中古車をベースにリサイクル部品なども活用し作り上げたコンパクトEVに関心を示す来場者もたくさんいました。廉価なEVがあれば乗ってみたいというユーザーは案外多いのかもしれない。



子どもたちも興味津々、クイズを通じて楽しみながら理解を深めた



コンパクトEVも立派なEV、もったいないを基本にCO₂排出を削減する

車)の展示も行いました。周囲の自動車メーカーブースで最先端のEV展示があり、これとの比較で、中古車をベースにリサイクル部品なども活用し作り上げたコンパクトEVに関心を示す来場者もたくさんいました。廉価なEVがあれば乗ってみたいというユーザーは案外多いのかもしれない。

話題の電気自動車が勢ぞろい

エコプロダクツ 2010 年の会場には話題の電気自動車 (EV) 展示が目立ちました。2009 年を「EV 元年」として印象付けた三菱自動車の「アイミーブ」、小型車を EV 化して 2010 年に登場した日産自動車「リーフ」。トヨタ自動車も「プラグインハイブリッド」だけでなく EV を開発中で、そのカットモデルが展示されていました。

EV 普及が本格的に進むにはさらなるバッテリー性能向上が不可欠で、その途中で効率的な利用を進めるには IT 技術によるサポートが必要不可欠と言われています。というものの EV は、日本が世界的にリードしている先端技術のひとつで、今後の低炭素社会に欠かせない基盤技術でもあります。



中国へも技術供与するトヨタ自動車「プリウス プラグインハイブリッド」



すっかりおなじみになった三菱自動車「アイミーブ」



国内発売直前で最も注目を集めた日産自動車「リーフ」



トヨタ自動車が開発中の都市型「EV(ベース車両 iQ)」



ダイムラー・ベンツが提案する「スマート電気自動車」

主 要 諸 元	三菱自動車「アイミーブ」▼モーター種類=三相交流同期型電動機▼最高出力 47kW(64PS)▼同最大トルク 180N・m(18.4kgf・m)▼電池=リチウムイオン▼電池定格電圧 330V▼電池容量 16kWh▼充電所要時間 AC100V16 時間/AC200V 約8時間▼最高速度 130km/h▼一充電走行距離(10・15モード)160km
	日産自動車「リーフ」▼モーター種類=三相交流同期型電動機▼最高出力 80kW(109PS)▼同最大トルク 280N・m(28.6kgf・m)▼電池=リチウムイオン▼電池定格電圧 360V▼電池容量 24kWh▼充電所要時間 AC200V 約8時間/DC 急速充電=80%約30分▼最高速度 140km/h以上▼一充電走行距離(JC08モード)200km
	トヨタ自動車「EV(ベース車両 iQ)」▼モーター種類=永久磁石式同期型▼同最高出力 47kW▼同最大トルク 163N・m▼電池=リチウムイオン▼電池定格電圧 270V▼電池容量約 11kWh▼充電所要時間 AC100V 約10時間/AC200V 約4時間/DC 急速充電=80%約15分▼最高速度 125km/h▼0→100km加速 14 秒台▼一充電走行距離(JC08モード)105km
	トヨタ自動車「プリウス プラグインハイブリッド」▼ガソリンエンジン最高出力 73kW(99PS)/5200rpm▼同最大トルク 142N・m(14.5kgf・m)/4000rpm▼モーター種類=交流同期電動機▼同最高出力 60kW(82PS)▼同最大トルク 207N・m(21.1kgf・m)▼電池=リチウムイオン▼電池定格電圧 345.6V▼電池容量 5.2kWh▼充電所要時間 AC100V 約180分/AC200V 約100分▼システム最高出力 100kW(136PS)▼プラグインハイブリッド燃費 57.0km/ℓ(CO ₂ 排出量 41g/km)▼充電電力使用時走行距離 23.4km
	ダイムラー・ベンツ「スマート電気自動車」▼モーター最高出力 35kW▼同最大トルク 120N・m▼電池=テスラ社製リチウムイオン▼電池容量 16.5kWh▼充電所要時間 AC100V 約 16 時間/AC200V 約8時間▼最高速度 100km/h▼0→60km/h 加速 6.5 秒▼一充電走行距離(NEDC:ヨーロッパ測定値)135km

多田自動車商会が格安レンタリース事業に着手

リボーン・カーリースは NGP 協同組合で2店舗目



遠くからでも目立つ
多田自動車商会の中古車レンタリースの新拠点

多田自動車商会（平田武土社長、兵庫県三木市）が、「リボーン・カーリース」に乗り出しました。同社は神戸市西区神出町の国道175号線に面したディーラー営業所を買い取り、新事業の拠点として整備しました。併せて「ニコニコレンタカー」にフランチャイズ店として加盟し、レンタリースの拠点としています。

リボーン・カーリースは NGP 協同組合員の永田プロダクツ（永田則男社長・山形県酒田市）でサービス提供を始めました。引き取り車両の中で程度の良いものを選んで再整備し、月額1万5000円からという低額の料金のメンテナンスリースを行うものです。リース車両の商品化に当たっては、引き取り車両からピックアップして程度の良いボディと走行距離の少ないエンジンを組み合わせることができるなど、リサイクル事業者ならではの強みを発揮できる新事業になります。

ニコニコレンタカーも同様に低コストの車両をそろえることで、低料金で貸し出す

サービスです。「リボーン・カーリースは1カ月単位の貸出。さらに貸出期間の短い要望に応えるためにニコニコレンタカーも始めました」と多田自動車商会の多田幸四郎会長は話しています。

拠点は黄色に塗られた外装が遠くからでも目立ちます。認証工場の資格を取得しており、車両のメンテナンスは拠点内の自社工場で行います。訪問したのは昨年12月の初旬で、車両を100台程度そろえてから大々的に売り出していくとのことで、貸し出す車両の準備などを進めているときでした。

ニコニコレンタカーは外部のノウハウになりますが、リボーン・カーリースは NGP 協同組合内部のノウハウです。取り組む組合員が増え、NGP 協同組合の新事業として展開できると面白いかもしれません。



整備・点検が完了し、貸出を待つ車両

ゴルフ同好会が発足

プレーを通じてオーナー同士の 交流を深める



大橋理事長から優勝カップを受け取る
山一商店の山田彰社長

NGP 協同組合にゴルフ同好会が発足しました。ゴルフを趣味としている組合員オーナーは多く、定時総会後の親睦や各支部のイベントなどとしてゴルフを実施してきまし

た。同好会は組織の粋を取り払い、ゴルフという趣味を通じて純粋にオーナー同士の交流を深めることを目的にしています。

昨年8月には北海道に集合し、新千歳空港近くのANAダイヤモンドゴルフクラブで2回目となる同好会を開きました。参加者は総勢28名、アウト45・イン43のトータル88で回った山一商店の山田彰社長がネット71.2（ハンデキャップ16.8）で優勝しました。2位は福山セコの藤原庸正社長、3位は大橋岳彦理事長でした。

ベスグロはアウト42・イン40のトータル82だったクレストパーツの中村昌徳社長でしたが、6というハンデキャップが厳しく7位という結果でした。

会議や総会、支部会などで顔を合わせる機会はありますが、公式な場面と一味違った顔を見ることができると同好会の醍醐味になります。事務局はリサイクルガレージケーワンの牛場社長が務め、今後定期的に例会を重ね、普段交流の少ない他支部のオーナーやこれから NGP を背負っていく若手との親睦を深めていきたいとのことでした。こうした交流が NGP 協同組合の新たな活力となり、発展につながる新事業のアイデアにつながるものと期待されます。



第2回同好会は真夏の北海道で開催

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL: 03-5475-1208 FAX: 03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp

株式会社 NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL: 03-5475-1200 FAX: 03-5475-1201
http://www.ngp.co.jp